

幼生飼育の決め手はエサにあり

ふ化後からガラスエビまで動物プランクトンのアルテミアを餌とした。



アルテミアのノウプリウス(0.6mm)

アルテミア (15mm)



ムラサキガイの生殖巣から つくったエサ・3週目からはこれを併用した

イセエビの甲長測定

水産技術センターではイセエビの資源管理をめざして、これまで10万尾以上のイセエビ甲長の測定を続けている

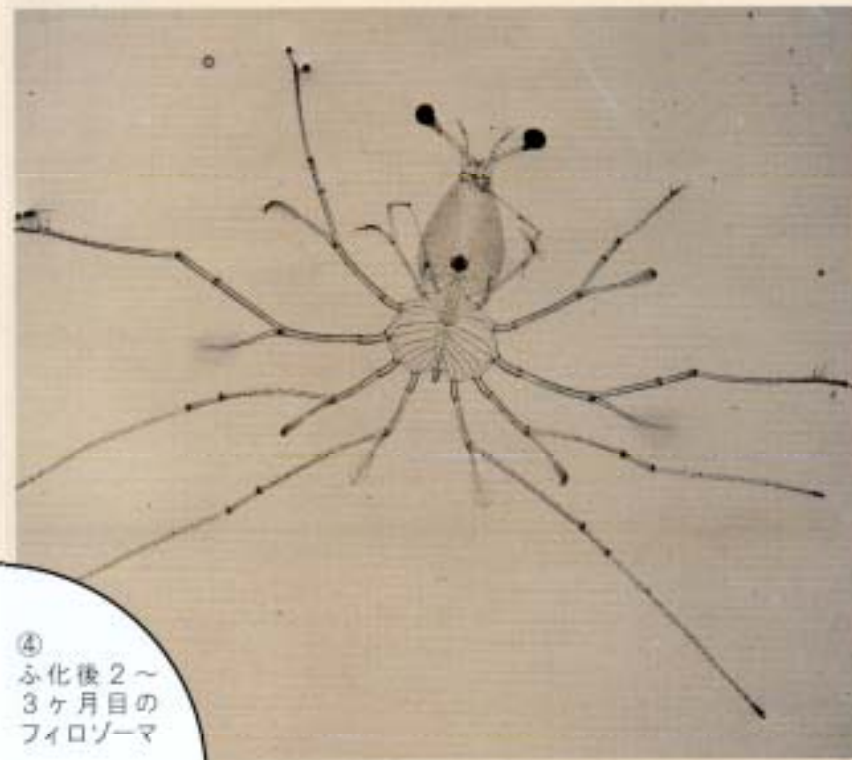


すでにこの飼育技術は、イセエビの種苗量産を目指した研究へと発展している。

この成功の陰には、飼育環境と餌料という二つの難問を根気よく解決していった長い時間と、多くの研究者の積み重ねられた努力がある。



- ⑤ ふ化後約10ヶ月目のガラスエビ
- ④ ふ化後2～3ヶ月目のフィロゾーマ
- ⑥ ガラスエビから約2週間後の稚エビ
- ③ ふ化した日のフィロゾーマ



世界で初めて イセエビ幼生の 完全飼育に成功!

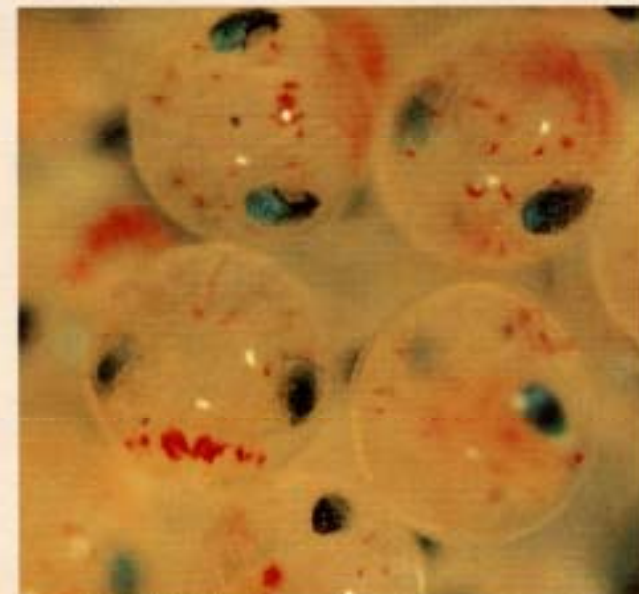
昭和六十三(1988)年五月、研究を開始した昭和五(1930)年以來58年目にして初めて、三重県水産技術センターは、イセエビ幼生フィロゾーマからブルルス(ガラスエビ)へ、さらに稚エビへと完全飼育することに成功した。その間の飼育日数は307日、フィロゾーマの脱皮回数は28回であった。



岩場のイセエビ



①卵を抱いたイセエビ



②ふ化のま近い卵